

投票環境整備と若者の政治参加
に関する提言書

令和2年5月13日

松本市議会

目 次

1	はじめに	P 1
2	調査の経過	P 2
3	調査の内容及び分析	P 2
4	提言	P 8
5	おわりに	P 8
※	資料 (別紙)	P 9

1 はじめに

2019年4月に執行された松本市議会議員一般選挙では、投票率が補選を除いて戦後過去最低の43.73%となり、4年前の前回選挙と比べ、3.76ポイント減少しました。

選挙権が18歳に引き下げられて以来、直後には高まりを見せた18歳投票率も選挙を経る毎に減少し、若者の投票率低下に歯止めがかかりません。

そして、この投票率の減少傾向は、今や若い世代だけの特徴ではありません。同選挙における投票率を年代別にみると、前回から3.93ポイント低下し、60代が最も高い59.57%で、下のグラフのとおり、年代が下がる毎に投票率も減少して、18歳選挙権の適用以降初めて投票した10代は19.66%にとどまっています。このように、投票率の低下は、若者だけでなく、どの世代にも見られるようになっています。

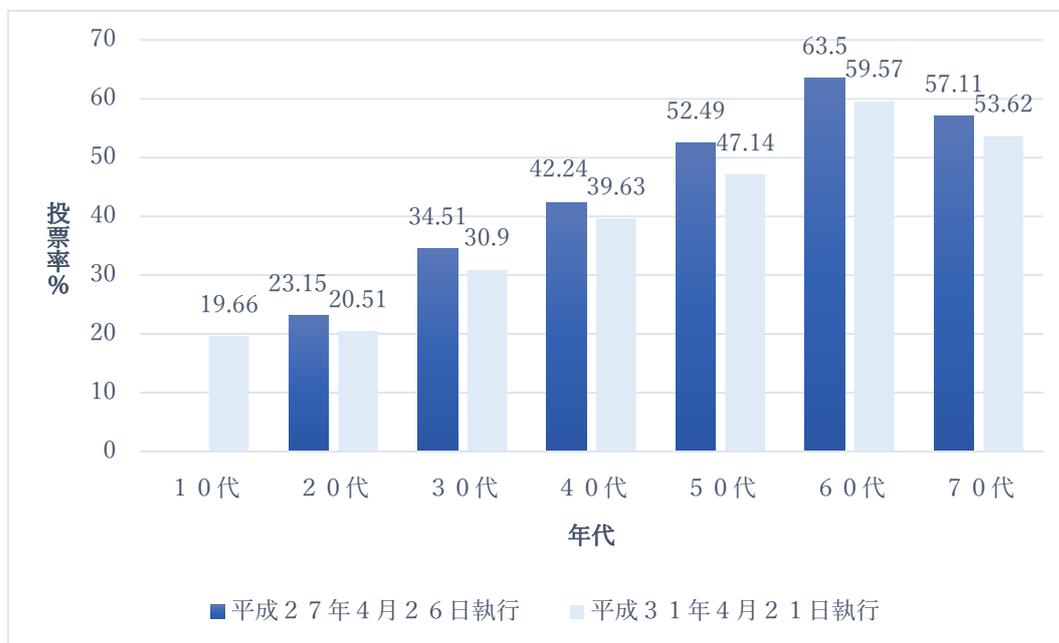


図1 松本市議会議員一般選挙 年代別投票率

この要因は各種指摘されていますが、高齢化の進展等を背景に、高齢者や障がい者が投票所に行くこと自体が困難となっているという声が地域からは聞かれ、さらに、投票所までの距離が離れている、あるいは、期日前投票所の設置地域に偏りが生じている等の実態も見受けられます。

一方で、2019年7月の参議院議員通常選挙から、利用率の高かった松本駅自由通路の期日前投票所が近隣の商業施設に移転されました。これにより、前回同選挙比で約15%の投票者数減となっています。

これらの現状を踏まえ、松本市議会では所管の総務委員会が投票率向上へ繋がる投票環境の整備と若者の政治参加について、調査研究を行いました。

2 調査の経過

- 令和元年 7月31日 青森県弘前市への視察調査
- 8月 1日 秋田県秋田市への視察調査
- 9月20日 松本市選挙管理委員会との意見交換
- 11月11日 「こんにちは県議会です『地方議会選挙の投票率向上（特に若者の投票率向上）について』の傍聴
- 12月20日 信州大学政治参加推進コミュニティーVOTERS及び信州大学地域参画プロジェクトCHANGEとの意見交換会
- 12月23日 松本工業高等学校との交流事業に参加
- 12月24日 松本工業高等学校との交流事業に参加
- 12月26日 松本工業高等学校との交流事業に参加
- 令和2年 2月 4日 エクセラン高等学校との交流事業に参加
- 2月 7日 松本大学学生との意見交換会に参加

3 調査の内容及び分析

(1) 投票所の設置方法について

ア 弘前市の視察

- (ア) 平成28年4月の公職選挙法改正により、従来の指定投票所のほかに、市内の有権者であればだれでも投票できる「共通投票所」を任意の場所に設置できるようになった。
- (イ) 平成29年3月には地方選挙で共通投票所を開設した場合、対象経費の2分の1が特別交付税として算入されることとなり、これを受けて、弘前市では、平成30年4月の市長選挙からこの制度を導入した。
- (ウ) 設置された共通投票所は、計98カ所ある投票所のうち、7番目に多い投票者数となり、一定の効果があつた。

イ 秋田市の視察

- (ア) 秋田駅自由通路、秋田市新庁舎1階、秋田大学、大型商業施設、6カ所ある市民サービスセンターそれぞれに期日前投票所を設置している。

- (イ) 大型商業施設には若い世代や家族を連れた買い物ついでの投票が多いとのことで、施設使用料がかかるという課題はあるものの、若い世代を中心に一定の効果がある。
- (ウ) それぞれ工夫された期日前投票所の設置により、秋田市投票総数のおよそ51%の方が期日前投票所を利用している。



<弘前市視察>

<秋田市視察>

ウ 松本市選挙管理委員会との意見交換

- (ア) 投票所への移動が困難な地区では、巡回バスを出しているところもある。
- (イ) 松本市南部地域には比較的期日前投票所が少なく、投票所の設置箇所に地域の偏りが生じている。



<選挙管理委員会との意見交換>

エ 考察

共通投票所や商業施設への期日前投票所設置は、投票率向上の効果は期待できる一方、コストがかかることと、設置する投票所の地域バランスについても課題があります。そこで、場所にとらわれない投票所として、移動投票所という事例が他市で実施されています。(別紙 資料参照)

設置コストを縮減する工夫も検討する余地があり、場所を選ばず設置できることから、一定の効果が期待される。

(2) 松本駅自由通路の期日前投票所について

ア 松本市選挙管理委員会との意見交換

期日前投票所を設置していた松本駅自由通路には冷暖房設備がないため、選挙の時期によっては選挙事務従事スタッフにとって過酷な環境となる。可搬式の冷暖房器具を設置したが効果は薄く、選挙事務従事スタッフの健康面を鑑みて、近隣の商業施設内に移転することとなった。投票者数は減少したが、周知啓発に努めつつ、今後も当該施設での運用を考えている。

イ 秋田市の視察

秋田市では秋田駅自由通路に期日前投票所を設置している。利用者数は14,599人と高い利用率だが、松本駅自由通路と同じように冷暖房設備がないために、選挙事務従事スタッフの暑さ・寒さ対策が課題となっている。一方で、秋田駅自由通路には期日前投票所を設置するスペースを確保できている。

ウ 考察

交通結節点である駅自由通路への投票所設置には高い利用率が期待されますが、従事スタッフの健康面のリスクがあります。今後、松本駅再開発計画及び村井駅改修事業が予定されていますが、この際に投票所を設置することを想定した設計がなされることが望ましいと考えます。

(3) 若者の投票率向上について

ア 秋田市の視察

秋田大学に設置された期日前投票所では、選挙事務従事者を大学生が務めており、投票啓発に携わっている。このことから、学生の主権者教育の効果が期待できる。

イ 長野県議会主催「こんにちは県議会です」傍聴

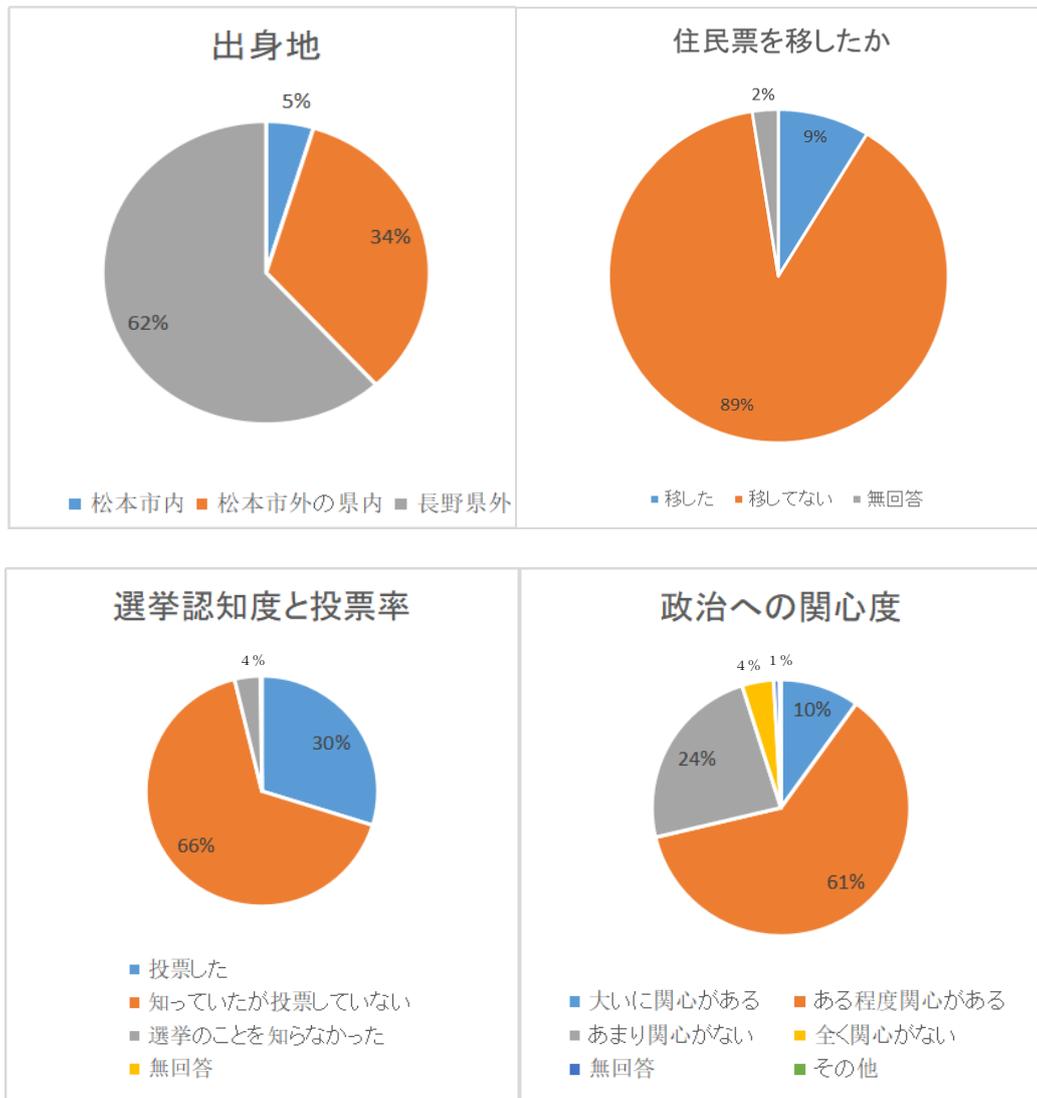
(ア) 母親地域活動団体シャインマムからは、子どものときから、家庭教育、学校教育の場で政治や選挙について学ぶことの重要性が指摘された。

(イ) 松本青年会議所からは、議会側から若者のいるイベントの場などに出向き、彼らが政治を身近なものとして感じられるようにする取り組みが必要であると指摘された。

ウ 信州大学生団体VOTERS、CHANGEとの意見交換

(ア) 2019年度7月の参議院議員通常選挙において、VOTERSでは信州大学内に期日前投票所を設置しようと試みたところ、その際に実施した学生向けのアンケート調査では、①在籍する学生のうち7割は政治に関心はあるものの、実際の投票行動に移しているのは全体の

およそ3割であること、そして、②そもそも約9割の学生が住民票を移していないという実態があることがわかり、期日前投票所を設置するのではなく、学生向けの不在者投票制度の周知・啓発を行うブースを学内に設置した。



総数=553

出典：VOTERSアンケート調査

- (イ) CHANGEは、バスの利便性向上などといった身の回りの地域課題を陳情や請願、要望活動に繋げる活動をしていて、課題を自分ごととして捉えることで政治関心を広げている。
- (ウ) 不在者投票の手続きに実費経費として90円の金銭的負担が生じることとなる。学生にとって、住民票を異動するメリットはあまり感じられない実態がある。



＜VOTERS、CHANGEとの意見交換＞

エ 松本工業高等学校との交流事業 話し合いの概要

- (ア) 投票率を上げるためにはどうすればいいか。
→期日前投票所を増やしたい。
- (イ) 投票率を上げるために何かあげたらどうか（例えば iTunes をあげたらどうか）。
- (ウ) 政治知ることがなかった。投票率向上より政治を知る機会を。
→若い人の意見が聞きたい（SNSなどの利用）
- (エ) 投票率が低いと考えは。
→19歳からが低い（大学進学で住民票を移していないと今いる場所で投票できないなど）。議員にも責任はある。
- (オ) 若い人が政治に関心を持つことを教えてほしい。
→身近な要求からも政治に関心が持てる。（身近な要求として出された課題・・・自転車レーンの整備と安全に通行できる対策をしてほしい。まちなかに地図（公共サイン）を増やしてほしい。）
- (カ) 若い人たちの選挙に対する関心の低さについてどう考えているか。
市政の課題を共有するよう、有権者に伝えたら関心が高まるのでは。
→投票率の低さについて、理由が分からずどうしたら関心を持ってもらえるのかと思っている。周囲に呼び掛けたり、関わりを持つよう努力はしている。
- (キ) 議員になるためにどんなことをしたか。
→選挙で当選するための対策、応援してくれる人たちを増やした。3月の市長選挙に関心を持ってほしい。

オ エクセラン高等学校との交流事業 話し合いの概要

- (ア) 若者の投票率を上げるために何をしているのか。投票に来たら粗品を出したらどうか。
- (イ) 若い人は仕事が忙しいので、パソコンやスマートフォンで投票できたらいい。投票の方法は楽な方がいい。

(ウ) 市長選挙が近いが、誰に投票したらいいか全くわからない。どこから正しい情報を得られるのか。

カ 松本大学学生との意見交換

(ア) 小中高の主権者教育の充実から投票率の向上に繋げてほしい。

(イ) 投票に出かけていくことに価値を見出せず、興味関心を持ってないでいる。

(ウ) 投票意識の世代間ギャップが生じている。

(エ) 過去に松本大学への期日前投票所設置を提案していて、設置された場合、学生も投票啓発や事務従事者として協力したいとの意見も聞かれた。



<松本工業高等学校との交流事業> <松本大学学生との意見交換>

キ 考察

投票意識に世代間ギャップがある、政治を身近に感じられていないという実態から鑑みるに、子どもの段階からの主権者教育が重要であります。

選挙権年齢が18歳に引き下げられた直後の選挙では、事前に選挙管理委員会として各高校に出張して投票啓発を行ったとのことでしたが、今後も継続されることが望ましいと考えます。

また、大学生からも選挙事務従事の協力意向もあることから、大学への期日前投票所を設置することで、学生における主権者教育の効果が期待されます。

さらに、大学生のほとんどが住民票異動に関してメリットを感じていないという。このことから、不在者投票の手続き等の周知啓発について丁寧な取組みが求められます。

4 提言

- (1) 交通弱者に配慮し、地域格差を是正するため、例えば、中山間地域を始め、必要な箇所に移動投票所を導入してください。
- (2) 松本駅再開発計画及び村井駅改修事業にあわせて投票所スペースを確保してください。
- (3) 高等学校への啓発活動の継続や不在者投票制度の周知など、小中学校、高等学校の主権者教育を充実してください。
- (4) 市内の大学に期日前投票所を設置し、主権者教育の一環として運営に大学生が関わるとともに、不在者投票の周知・啓発に努めてください。

5 おわりに

明治30年7月、中村太八郎や木下尚江らは、松本の緑町に「普通選挙期成同盟会」の看板を掲げ、「普通選挙を請願する趣意」を発表した。松本市は、全国に先駆けて普通選挙の実現を求める運動がはじまった「普選運動発祥の地」として知られています。今、全国で若い世代を中心とした低投票率が課題とされていますが、当市においても、他都市と同じく投票率は減少を続けています。このような背景を持つ松本市として、投票率の課題には今後も継続して取り組まなければなりません。

今回の提言書では、移動投票所を設置することで、まずは投票所に行くことが出来ないという課題を解決することに主眼を置きました。将来的には他の商業施設への期日前投票所の設置や共通投票所の設置、そして、規制が緩和されることとなる電子投票の実施についても検討してください。

また、松本市議会では「まつもと市議会こどもだより」の発行や学生との意見交換等に取り組んでいます。この1年間の若者との意見交換においても、彼らの視点による新しい提案をいくつか受けました。法的な制約はありますが、これらに応えることができれば、若者の政治参加や投票率向上に繋がることも期待されます。

最後に、投票率が減少している原因のひとつには、議会や候補者の訴えが市民に届いていないということも挙げられます。今後、一層の議会改革に取り組むことを決意し、今回の提言を締めることとします。

他市における移動投票所の設置状況

No.	市名	法定人口 (人)	設置に至った経緯・目的
1	むつ	56,920	<p>当市では、今後、投票区の見直し及び再編を行う予定であり、再編する上で、現在よりも投票所が遠くなる地区の交通弱者への移動支援や移動期日前投票所等の代替方法を検討していた。</p> <p>こうした中で、議会の一般質問等で交通弱者への取組みや若年層の投票率向上について何度か質問されており、手法の一つとして、移動期日前投票所を試験的に実施することとした。</p> <p>高校を選定した理由としては、選挙期日が10月であることから、高校3年生の約半分ほどが18歳を迎え、選挙権を有することや、在校生にも近い将来有権者となることから、見てもらうことによる啓発を兼ねて選定した。</p> <p>また、移動式の投票所にした理由は、高校の校舎内に投票所を開設するとなると、部外者や不審者を敷地内に招き入れる恐れがあり、セキュリティ面に課題が残るため、校内ではなく駐車場の一部を借用し、実施した。</p>
2	一関	115,822	<p>平成29年に投票環境の改善を目的として、投票環境改善実施計画を策定し、共通投票所の設置や期日前投票所の充実を図るとともに、投票区の再編を行い、同年に執行した2回の選挙の結果を踏まえ、平成30年に計画の見直しを行った。</p> <p>この見直しにおいて、全国で導入が進んでいる移動投票所を高校や再編後の投票所までの距離が遠い旧投票所等に設置することより投票環境の改善を図ることを目的として導入した。</p>
3	柏崎	83,093	<p>柏崎市では、これまで投票区の再編、投票所の閉鎖時刻の繰上げの見直しを適宜行ってきたが、一部の投票所では、有権者数減少により、投票所の存続が困難となってきた。</p> <p>投票所廃止に当たっては、期日前投票などの充実を図るための代替措置を検討した結果、既に他県で導入されている自動車を活用する移動期日前投票所を採用することとした。</p>
4	浜田	53,533	<p>有権者数が極めて少ない投票所において、期日前投票の普及などにより投票日当日の投票者が少ないことや投票立会人の選任が難しいことなどの理由により統合することとなったが、その代替案を検討することとなった。</p>

No.	市名	法定人口 (人)	導入・運用経費、財政措置の有無とその内容
1	むつ	56,920	<ul style="list-style-type: none"> ・導入に当たり、今回は市保有の財産（公用車（ハイエース）、発電機（夜用）、椅子等その他備品）を使用したため、購入は、受付用テント1張（約3万2千円）、名簿対照用携帯電話リース料2台（約1万1千円）、記載所、受付用ライト等（約1万1千円）のみだった。 ・投票管理者、職務代理者及び投票立会人は職員及び選挙管理委員を選任したため、時間外手当、費用弁償等、経費を抑えるよう工夫をした。
2	一関	115,822	<ul style="list-style-type: none"> ・主な経費は、投票管理者及び投票立会人の報酬 ※ 投票の受付に使用するシステムは、投票日当日の機器を兼用した他、車両は公用車を使用したため、経費等は無
3	柏崎	83,093	<ul style="list-style-type: none"> ・移動期日前投票システム構築費1,300千円（通信費除く。） ・移動期日前投票車乗降用階段作成費130千円 * 令和元年7月21日執行参議院議員通常選挙執行委託費交付金を充当
4	浜田	53,533	<p>平成28年参議院通常選挙の移動期日前投票所（車）の導入経費については、車両費用は公用車のため経費はかからなかったが、燃料費が約5千円、車両の選挙啓発用マグネット板などが約85千円、記載台作成費が約97千円、人件費が投票管理者及び投票立会人合わせて約30千円×3日、通信費が約33千円、電話レンタル料が約15千円、雑費が約2千円の合計約327千円程度となった。現在投票所（車）はリースで対応している。</p>

No.	市名	法定人口 (人)	投票率への影響等具体的な効果、課題及び今後の計画について
1	むつ	56,920	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校3年生の新有権者の投票率を今年度実施した選挙で比較すると、4月7日執行青森県議会議員一般選挙（42.8%）、6月2日執行青森県知事選挙（55.41%）、7月21日執行第25回参議院議員通常選挙（44.06%）、10月6日執行むつ市議会議員一般選挙（62.03%）というデータから、移動期日前投票実施による効果はあったと思われる。 ・ 高校生からは、「気軽に投票できてよかった。」や「学校帰りに投票できて、来やすかった。」、地域住民からは、「投票所が遠くて行きづらかったが、近くに来てくれたので来やすくなった。」等の意見をいただき、有権者の利便性の向上へと繋がったのではないかと考える。 ・ 今後の課題としては、今回は試験的運用として高校に限定しておこなったため、バリアフリー対策（高齢者の車への乗降車（特に降車）が大変だったことから、スロープの設置や手すりの設置が必要。）が不十分だったと考える。 ・ 投票区を再編し、各地区へ出向く際には、設置場所の周知方法や雨天時の対応（雨をしのげる場所やテントを設置する場所はあるか等）、名簿照会の方法（今回は電話にておこなった）等が挙げられた。 ・ 今後、投票区の再編について具体的な計画は、これからの協議となるが、今回の試験的運用で「良かった。」という住民の声や新有権者の投票率向上に効果があったことを参考に、今後も実施を継続し、移動支援等も活用しながら、投票区を再編した際に、有権者に不便をかけないような投票環境の整備を図ってきたい。
2	一関	115,822	<ul style="list-style-type: none"> ・ 短時間の設置でも一定の投票者があり、特に60歳代以降の高齢者層の割合が高くなっている。投票所への距離が遠い地域の高齢者等の投票への利便性の観点で、一定の効果があった。 ・ 一方で、天候の影響が大きく、雨や風又は積雪のある冬期間等、気象条件によっては、開設が困難となる。（今年2回の選挙では、天候に恵まれ大きな問題もなく開設することができた。） ・ また、高校への設置については、有権者が限られることや受け入れる学校側の様々な要因により、開設を断られるケースが多か

			<p>った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の開設については、設置の方法等を含め再度検討する必要がある。
3	柏崎	83,093	<p>(有権者の声)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで投票したい意向はあったが、投票所まで行くことができなかった。今回、導入された移動期日前投票車により投票することが可能となった。 ・投票所会場が2階にあり、急な階段を乗降する必要があったが、移動期日前投票車へ乗降する階段は3段であり、楽になった。 ・市は経費を抑えるために投票所を無くした。もっと良い期日前投票所を設えるべきである。 <p>(投票率への影響)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動期日前投票車を導入した地区においては、近年では最も高い投票率となったが、市全体の投票率は、減少傾向にある。 <p>(今後の計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の3箇所のほか、もう1箇所を加え、計4箇所にて、移動期日前投票を実施する予定である。 ・今後、期日前投票車の開設について、木曜日及び金曜日の2日間とするか移動期日前投票車を金曜日に複数台体制とするかを検討する。 ・高齢者の利用が多いことから、荷台への乗降及び投票用紙の記載方法などを更に検討する。
4	浜田	53,533	<ul style="list-style-type: none"> ・劇的な投票率の増加が見られたわけではないが、山間部における投票機会の確保などにおいては、地元住民の方々の要望に応えることが出来たのではないかと考えている。 ・今後の選挙を考えると、冬季の雪対策については相当の準備と対策・体制を整えておく必要がある。 ・今後、他の投票区からも移動期日前投票所の開設を希望する声が上がってくると想定されるが、あくまでも投票所統合の代替策であるので、闇雲に拡大していく方針とはしていない。

No.	市名	法定人口 (人)	その他の特徴的な環境整備
2	一関	115,822	<p>(1) 商業施設への投票所の設置 (期日前投票所3箇所、共通投票所2箇所) 平成29年から商業施設2箇所に期日前投票所と共通投票所、今年は期日前投票所を1箇所追加して設置した。期日前投票者の4割以上が商業施設を利用しており、利便性が高く、期日前投票者数の増加にもつながっている。</p> <p>(2) 投票所への移動支援 ア 投票所入場券にバス・タクシー乗車券を印刷し有権者全員に送付し、投票への移動に係る経費の助成を行った。平成29年に執行した選挙時と比較すると、今年の実行時には、利用者は減少しているものの、一定の利用がある。 イ 平成29年の投票区見直しにより一部地域で旧投票所等から直営の送迎バスを運行したが、利用者は少ない。 ウ 障がい者等の移動を支援するため、介護認定を受けている等、一定の要件を満たす方を対象に、事前登録制のデマンド型移動支援を今年の実行時から行った。登録者は3名と少なかった。</p> <p>(3) 今後、投票区の再編について具体的な計画は、これからの協議となるが、今回の試験的運用で「良かった。」という住民の声や新有権者の投票率向上に効果があったことを参考に、今後も実施を継続し、移動支援等も活用しながら、投票区を再編した際に、有権者に不便をかけないような投票環境の整備を図っていきたい。</p>